

国際関連情報 Report from IASB

IASB 赴任の報告と御礼

IASB 客員研究員 **はら かん
原 寛**

1年半の企業会計基準委員会（ASBJ）での出向を経て、本年1月から客員研究員として国際会計基準審議会（IASB）に赴任しております。時の経過は本当に早いもので、赴任してからすでに4か月が経とうとしています。こちらでの生活リズムもだいぶ確立してきましたので、今後は益々業務に注力し、残りの出向期間を有意義なものにしていきたいと考えております。

私は IFRS 解釈指針委員会のチームに所属しておりますが、現在、主に担当している業務は以下のとおりです。

- ① アジェンダ・コンサルテーション（2015年）に対するコメントのうち、退職後給付のリサーチ・プロジェクトに関するコメント分析と今後の方向性の検討
- ② IASB が昨年公表した公開草案「制度改訂、縮小又は清算時の再測定／確定給付制度からの返還の利用可能性（IAS 第19号及び IFRIC 第14号の修正案）」に対するコメント分析とそれに対するスタッフ提案の作成
- ③ 料金規制対象活動に関するリサーチ・プロジェクトに関して、今後、IASB の会議で審議するに値する会計モデルの立案

上記①と②はともに退職後給付に関するプロジェクトで、私の前任者である三浦朱美さんが担当されていたものです。三浦さんが作成され

たスタッフ・ペーパーや関連する公開会議の録音を確認することが多いのですが、私も三浦さんのように活躍できるようになりたいと日々感じているところです。

①については、5月のIASB会議にスタッフ・ペーパーを提出し、アジェンダ・コンサルテーションのコメント等を踏まえたプロジェクトの今後の方向性について、スタッフ提案を提示する予定で作業を進めております。私にとって、初めて公開会議に自分のペーパーを提出し、IASBメンバーに審議してもらうことになる予定ですので、正直緊張しているところです。

次に②については、現在、7月のIFRS解釈指針委員会に公開草案に対するコメント・サマリーを提出し、9月の同委員会ですれに対するスタッフ提案について審議してもらう予定で計画しております。特定の公開草案の提案に対して、一部の国から強い反対意見が示されていることもあり、特に慎重に検討していかなければならないと思っております。

最後に③については、アジェンダ・コンサルテーションの結果を踏まえ、今後検討していくに値するより明確な会計モデルの立案が求められている状況であり、チームでその検討を進めているところです。ただ、まだ私の同プロジェクトに関する知識と経験が十分でなく、少しで

もプロジェクトの進展に今後貢献できるように頑張っていきたいと思います。

これらの担当業務に関しては、今後、それぞれの進展に応じて、その内容をご説明させていただきたいと思っております。

IASB に赴任してからの全体的な感想としては、非常に国際色豊かな組織であり、多様性が許容され、皆がそれぞれの能力を生かして業務に従事しているように感じます。また、業務に集中するのはもちろんですが、プライベートの生活も大事にしており、そのバランスを上手くとって業務を行っていると感じます。まだ、わからないことや自分だけでは解決できないことも多いですが、周りの多くの親切なスタッフに支えられ、日々感謝しながら業務に従事しているところです。2年間という短い期間ですし、英語での環境で他の人よりも同じ仕事でも非常に多くの時間を要しますが、このような機会はなかなか得られないので、精一杯、努力していきたいと思います。一方で、他のメンバーとの交流も大事にしていきたいと思っております。

末尾となりましたが、私の IASB への就任にあたって大変に多くの皆様のご協力と励ましをいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。